

第17. その他(水産業関連取組事例)

(1) 日高管内漁業士会の活動

地域漁業の振興にあたり、将来的に漁村地域の中核となり得る青年漁業者、また、漁村青少年の育成などに指導的な役割を果たしている全道の各漁業者に対して、北海道知事より「北海道漁業士」としての称号を付与しています。現在、日高管内には17名の漁業士がおり、日高管内漁業士会として、地域の活性化、漁業の振興を目的に活動を行っています。

昨年は、当会初の試みとして、日高町主催の「日高秋の味覚フェア」に参加しました。同じ志のもと活動を行う日高地区漁協青年部と女性部の三連合同で「日高の浜からとどけ隊」を結成し、管内の代表的な水産物であるツブをはじめ、タコやカニ、各地区の女性部が手がけた加工品など盛りだくさんの品数で、大盛況となりました。開催地が山間部（道の駅 樹海ロード日高）ということもあって、水産物に注目が集まり、中でも活ツブは大人気でした。

※ イベントの様子



また、食育・魚食普及に向けた活動も行っており、昨年、浦河町内の小学校で1、2年生を対象に出前授業を行いました。座学のほかに、生きた水産物を持ち込んで体感授業なども行い、子供たちは興味津々の様子でした。また、当日は浦河町内の学校給食センターにタコ、ツブ、イカ、ホッキを提供し、給食メニュー「日高汁」として配給されました。子供たちの「美味しい」の一言にととても感動しました。



※ 出前事業の様子



日高管内漁業士会は、今後もこうした活動を継続し、地域を盛り上げていきます。

(2) 埋もれた食材

日高地区漁協女性部連絡協議会では、地場水産物の消費拡大と食育及び需要喚起を目指し様々な取り組みを行っています。低需要・低価格等のため廃棄されている魚介類、いわゆる「埋もれた食材」の普及に向けたPRの一貫として、日高振興局で水産物の販売会「浜のかあさん食べもの市」を行いました。

今回で4回目となりましたが、「やまのかみの昆布巻き」「毛つぶの甘露煮」「たこまんまのかまぼこ」など、あまりなじみのない商品が食べられるということで、そのおいしさと浜のかあさんの手作りという安心感もあり、商品はほぼ売りきれ好評を博しました。購入者の中にはリピーターも多く、また、年に何回も開催してほしいとの声も聞かれました。

※ 販売会の様子



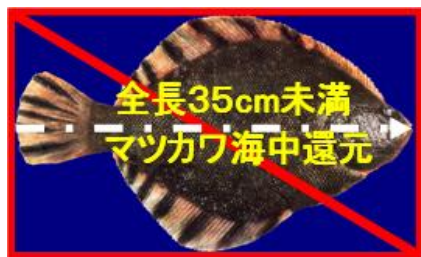
(3) 王鰈(マツカワ)

当管内では、平成5年から試験的に種苗放流が開始され、放流数の増加に伴って漁獲も右肩上がりとなっています。

平成18年には北海道栽培漁業拠点センター（伊達市、えりも町）の供用が開始され、えりも町から函館市南茅部までのえりも以西太平洋海域では100万尾の種苗放流を行い、150tの資源造成を図る計画となっており、うち当管内各地より38.6万尾（平成24年度実績・標識及びイベント含む）が放流されました。

《マツカワ資源管理》

マツカワの資源造成を図る上で、放流後のマツカワ稚魚を適切に保護・管理・育成するため、函館市からえりも以西の太平洋海域において、「全長35cm未満のマツカワの海中還元」を主な内容とした海区漁業調整委員会指示が発動され、漁業者はもとより遊漁者も対象とした資源造成に取り組んでいます。



〔全長35cm未満のマツカワを採捕した時は、速やかに海中へ戻して下さい。〕

